



ペナルティーキックに北風として加勢

柳 紅生

北風を擬人化して巧い。勝敗は時の運であるとか、運も実力のうちなどというが、北風がチームのサポーターだったとは気が付かなんだ。



里芋の親に子どもがしがみつくとく

横山洋子

擬人化して写生したところに巧みさがあるね。親芋に懸命にくっついている子芋の健気さがある。自身のこととも、子どもと孫のこととも読める。



公園は銀杏の実でできてをり

月城花風

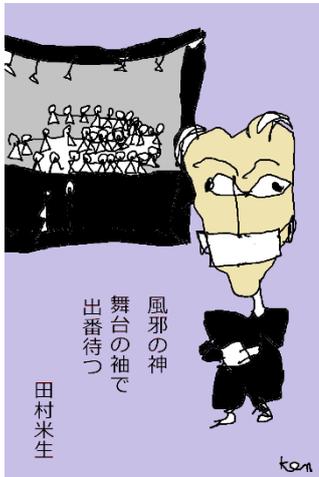
俳句は理屈でなく直観でつくるもの。夥しい銀杏の実に銀杏公園じゃわいと思った。思い込みの延長線上に誇張があり、それが詩にもつながる。



秋の陽にあたれば人も渋み抜け

荒井 類

陽にあたれば柿の渋が抜ける。ならば人間だって同じこと。同僚知人から渋い存在として一目置かれていたが、秋の陽に腑抜けにされたらしい。



風邪の神舞台の袖で出番待つ

田村米生

できれば登場しないでもらいたいが出番が来たね。舞台のタイトルは、「万病の世界」。万病の元という風邪の神が主役で大暴れ。効果音は北風。



のるたちでやれラグビーだサッカーだ

山本 賜

いわゆる「にわか」というやつだね。あら山本さん眼が赤いわよ。ああ、いえ、遅くまでテレビで応援なんかちょっとしかしてません。